

## 経済倶楽部便り

◆東京◆ 3月の講師には東海大学客員教授の長尾年恭氏に来て頂きました。今年も年年初に能登半島で大きな地震があり、引き続き地震情報には高い関心が集まっています。ご講演では能登半島地震の解説もさることながら、最近増えている房総半島沖の地震の分析に驚かされました。地震の性質は巨大地震の引き金にもなると言われているスロースリップというタイプのもので、地震そのものはゆっくりしているが、周辺の歪みを増幅させ、これがある一定の周期で解放されて大きな地震になるとのこと。その周期が接近している可能性が高いと話されました。

詳しくは講演録5月号に掲載されます。

5月の講師は法政大学教授の山口二郎氏、東京大学大学院教授の遠藤乾氏、BNPパリバ証券チーフエコノミストの河野龍太郎氏、神奈川大学特別招聘教授の下斗米伸夫氏の予定です。

◆中部◆ 3月の講師の一人はTBSスペシヤルコメンテーターの星浩氏でした。最近の北朝鮮の日本に対するアプローチについて「彼らの狙いはアメリカにあり、日本への対応の本気度は薄い。仮に将来北朝鮮との国交が実現しても韓国とは終わっている賠償問題の解決が不可欠で、1兆円程度必要だ」と話されました。

5月の講師は東京大学先端科学技術研究センター准教授の小泉悠氏、中国問題研究家の津上俊哉氏を予定しています。

(日暮良一)